

国際財務報告基準(IFRS)の任意適用に関するお知らせ 補足資料

IHI

2020年10月26日

株式会社 IHI



目次

1. IFRS適用の目的とこれまでの準備状況

2. 今後の開示予定

3. IFRS適用の影響 2019年度実績

連結損益計算書（日本基準→IFRSの調整表）

報告セグメント別内訳

連結貸借対照表（日本基準→IFRS）

連結キャッシュ・フロー（日本基準→IFRS）

1. IFRS適用の目的とこれまでの準備状況

(1) IFRS適用の目的

- 資本市場における財務諸表の国際的な比較可能性の向上
- 会計方針の統一によるグループ経営管理の品質向上

(2) IFRS適用に向けたこれまでの準備状況

- 2020年度からのIFRS適用を目標として準備を進め、その一環として、在外子会社の報告期間統一や、以下のとおり日本基準決算における会計処理方針の変更を段階的に実施。

日本基準決算における主な会計処理方針の変更

2017年度期首：有形固定資産の減価償却方法の変更

- 定率法を廃止し、定額法に統一

2018年度期首：為替予約の振当処理の廃止

- 為替予約に関する日本基準特有の処理を廃止し、原則的な方法を採用

2020年度期首：収益認識会計基準の早期適用

- IFRSにおける新たな収益認識会計基準と同等の会計処理へ

2020年度末
IFRS任意適用

2. 今後の開示予定

2020年度(2021年3月期)の期末決算より、当社の連結財務諸表および連結計算書類について、従来の日本基準に替えて、IFRSを任意適用します。

任意適用に向けた今後の開示予定

決算期		開示資料	適用会計基準
2020年度 (2021年3月期)	第2四半期 第3四半期	<ul style="list-style-type: none">• 四半期決算短信• 四半期報告書	日本基準
	期末	<ul style="list-style-type: none">• 決算短信• 連結計算書類• 有価証券報告書	IFRS

3. IFRS適用の影響 2019年度実績 連結損益計算書(日本基準→IFRSの調整表)

- 2019年度実績について、日本基準とIFRSの調整内容は、下表のとおり。なお、IFRS調整のうち、収益認識会計基準は、日本基準決算において既に2020年度期首から適用済み。
- 結果として、「表示科目組替」(従前の営業外・特別損益を営業利益の内数へ)の影響を除き、2020年度現在の日本基準決算に対する実質的なIFRS適用影響(=下表の「認識・測定の違い調整」)は、限定的。

【2020年度期首から日本基準に適用】

主に航空・宇宙・防衛セグメント(民間航空エンジン)に影響

	日本基準 2019年度 A	IFRS調整 B			IFRS ^(※2) 2019年度 C=A+B
		表示科目 組替	収益認識 会計基準	認識・測定 の違い調整	
受注高	13,740	-	▲990	50	12,800
売上高	13,870	-	▲1,330	50	12,590
営業利益 ^(※1)	610	20	▲130	▲20	480
金融損益 (持分法投資損益を含む)	▲190	-	-	0	▲190
その他営業外損益	▲100	100	-	-	
経常利益	320				
特別損益	70	▲120	-	50	
法人税等/非支配株主損益	▲260	-	50	▲10	▲220
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	-	▲80	20	70

(億円)

連結の範囲の変更

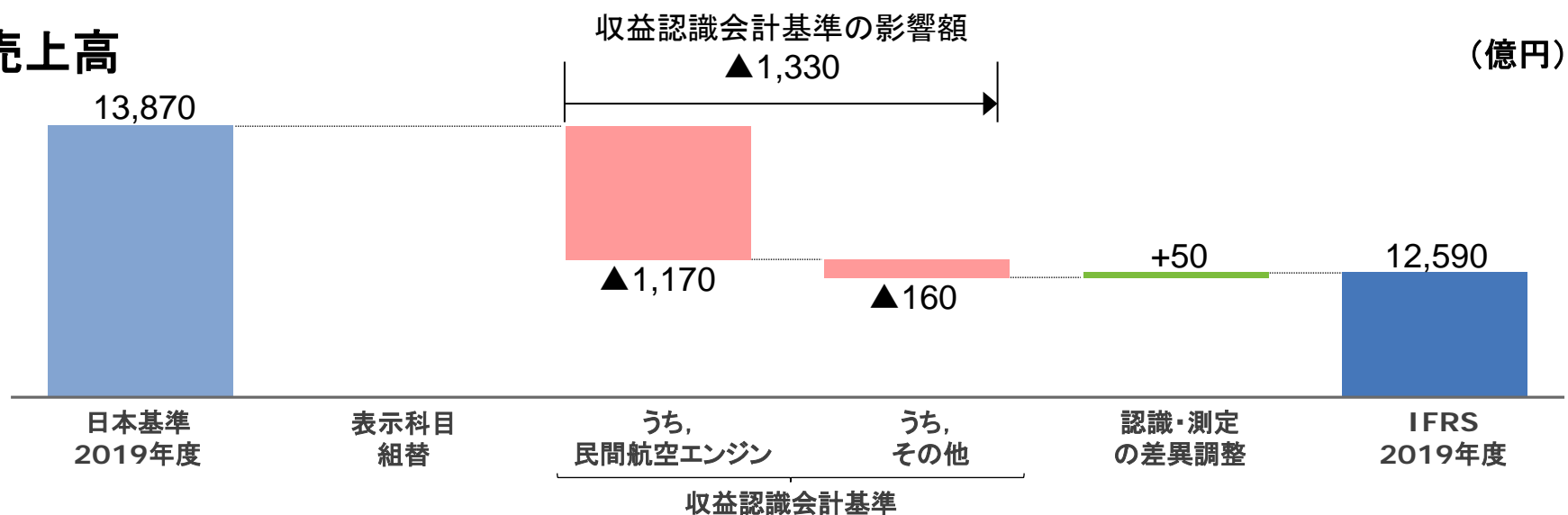
投資有価証券評価損の控除
(IFRSではPL計上しない)

※1 IFRSベースの営業利益=売上総利益-販管費+(日本基準における)金融損益以外の営業外・特別損益

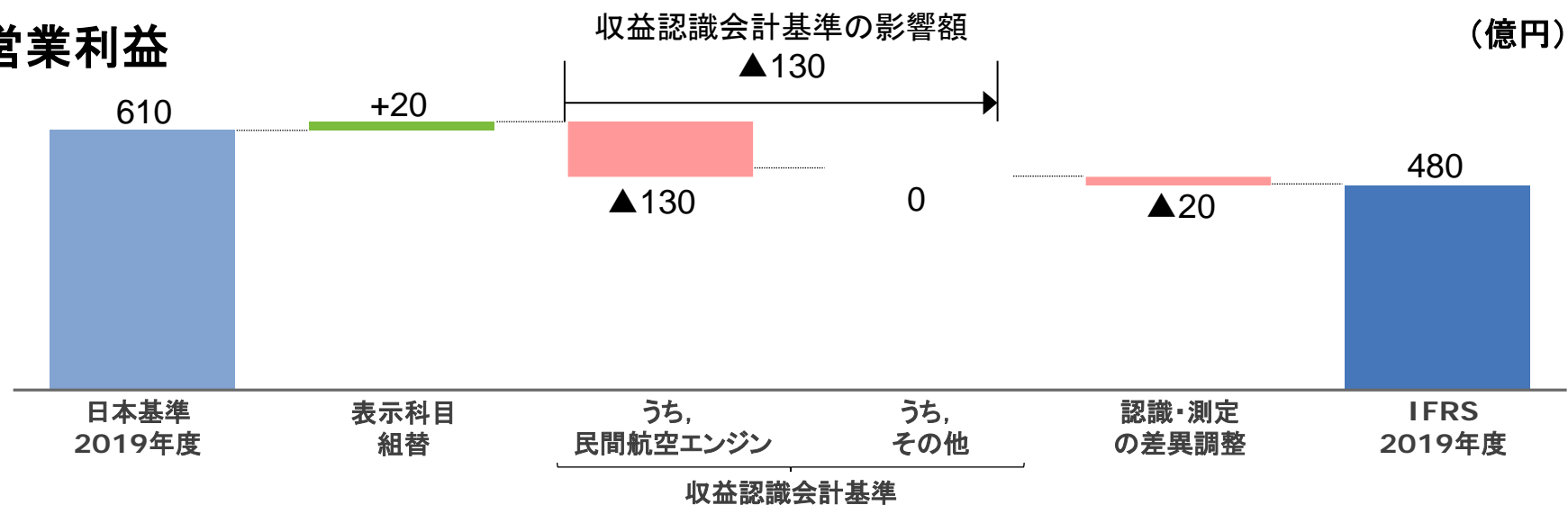
※2 IFRSベースの2019年度実績は会計士監査前の試算値。また、日本基準とIFRSともに概数で表記。

3. IFRS適用の影響 2019年度実績 連結損益計算書(日本基準→IFRSの調整表)

(1) 売上高



(2) 営業利益



3. IFRS適用の影響 2019年度実績 報告セグメント別内訳

■ 売上高・営業利益

(億円)

	売上高			営業利益		
	日本基準	IFRS	増減	日本基準	IFRS	増減
資源・エネルギー・環境	3,280	3,250	▲30	50	40	▲10
社会基盤・海洋	1,530	1,490	▲40	130	130	0
産業システム・汎用機械	4,060	4,040	▲20	120	130	10
航空・宇宙・防衛	4,810	3,650	▲1,160	400	210	▲190
報告セグメント計	13,680	12,430	▲1,250	700	510	▲190
その他	700	670	▲30	40	70	30
調整額	▲510	▲510	0	▲130	▲100	30
合計	13,870	12,590	▲1,280	610	480	▲130

3. IFRS適用の影響 2019年度実績 報告セグメント別内訳

■ 営業利益の増減要因

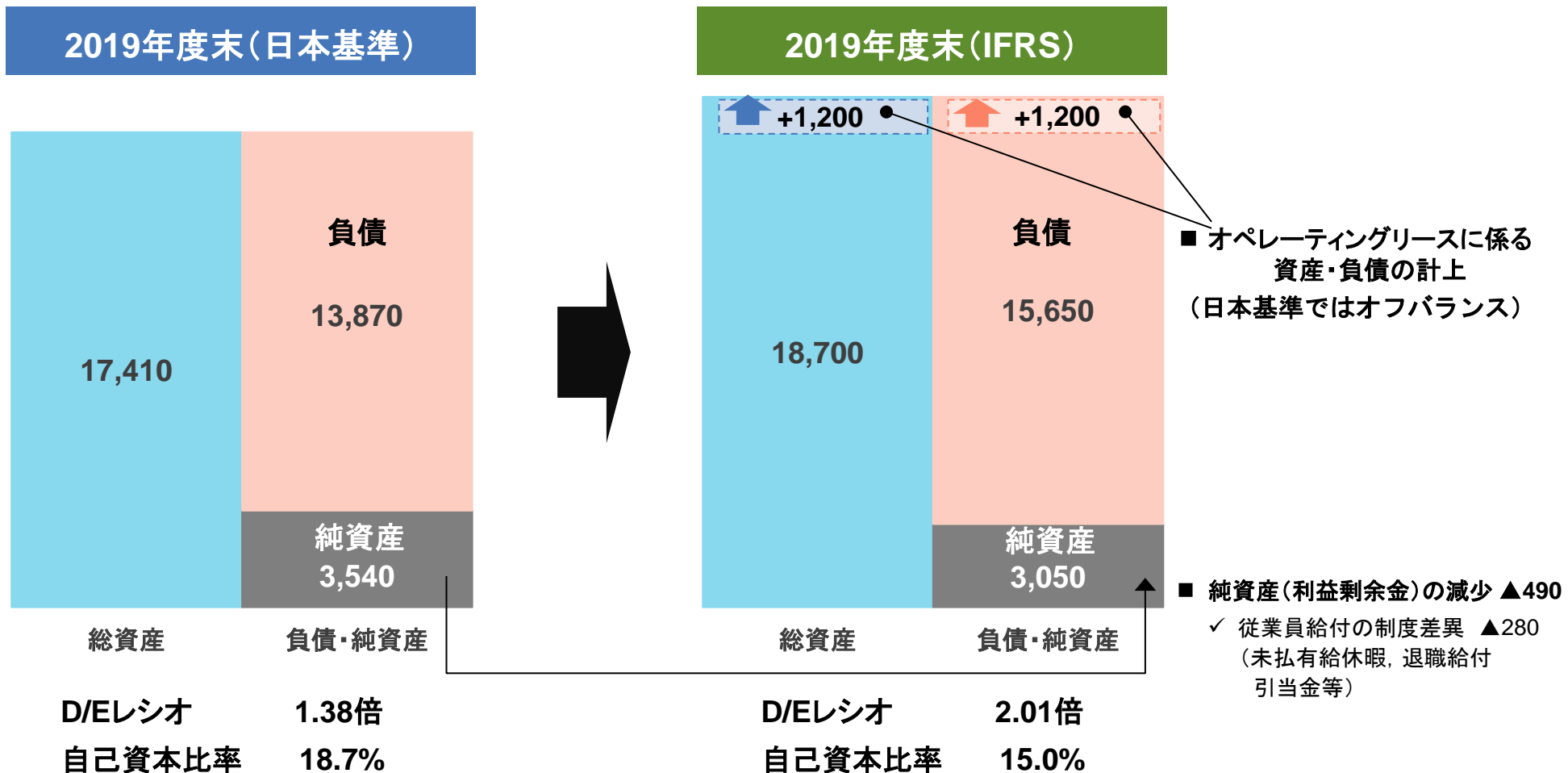
(億円)

	表示科目 組替	収益認識 会計基準	認識・測定 の差異調整	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 10	0	0	▲ 10
社会基盤・海洋	0	0	0	0
産業システム・汎用機械	10	0	0	10
航空・宇宙・防衛	▲ 30	▲ 130	▲ 30	▲ 190
報告セグメント計	▲ 30	▲ 130	▲ 30	▲ 190
その他	40	0	▲ 10	30
調整額	10	0	20	30
合 計	20	▲ 130	▲ 20	▲ 130

※ 表示組替には端数調整を含む

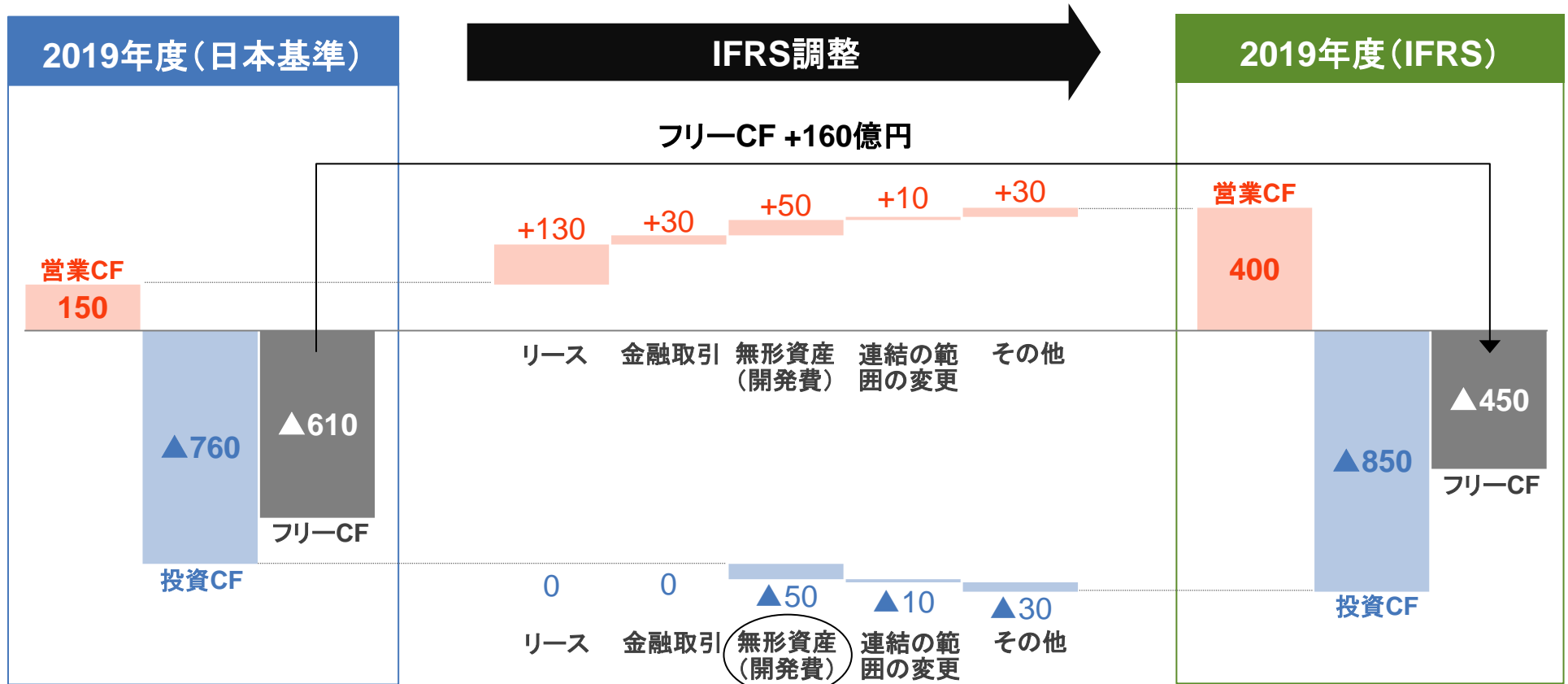
3. IFRS適用の影響 2019年度実績 連結貸借対照表(日本基準→IFRS)

- 主としてリース資産・負債のオンバランスにより、IFRSベースの総資産は1,300億円増加、負債は1,800億円増加。
- リース負債の増加額は1,200億円であり、有利子負債が同額増加。
…2019年度末 有利子負債残高 日本基準 4,900億円→IFRS 6,100億円



3. IFRS適用の影響 2019年度実績 連結キャッシュ・フロー(日本基準→IFRS)

- IFRSベースのフリーCF(営業CF+投資CF)は、オペレーティングリースに係る債務の支払い等が、営業CFから財務CFに組み替わるため、160億円程度増加。



■ 無形資産(開発費)

民間航空エンジンの開発費(量産準備段階の費用)について、従来は棚卸資産に計上していたが、IFRSでは無形資産(固定資産)に分類されるため、当該支払いが営業CFから投資CFに組み替わる。

IHI

Realize your dreams